

土木学会四国支部「土木紀行」No.39(徳島)

かずら橋と野猿



写真-1 かずら橋

かずら橋は徳島県三好市西祖谷山村善徳の渓谷に架けられており、日本三奇橋の一つであり、重要有形民俗文化財として全国にその名が知られています。橋長47メートル、幅員1.7メートルで、丸太のサナ木をかずらで十数センチ間隔で組み合わせたものを床板とし、床板両側にかずらとサナ木で編んだ高欄を取り付け、約直径4～8センチにより合わせた四本のかずらを主索として两岸の大木から下の床を吊り上げています。この橋に使用されているかずらは白口かずらという蔓(つる)性落葉低木で、猿梨(さるなし)とも呼ばれます。この蔓は極めて強く腐食しにくく、火にあぶると形を自由に加工出来るという優れた加工性を持っています。

またかずら橋の起源には、弘法大師によって架けられた、平家の落人が考え出したなど数多くの伝説が残っていますが、いずれも根拠は薄く定かではありません。分かっていることは、大正年間までは東西両祖谷山には十ヶ所余りのかずら橋が架けられていましたが、大正末期に鉄線の吊り橋が架けられるようになり、全てのかずら橋が取り外されたということです。しかし昭和初年に再び観光用として復活し、それが現在架けられているかずら橋となっています。近年かずらの不足などで報道に取り上げられたりもしましたが、特に有名になったかずら橋は県外客の観光のメッカとなり、県西部のおすすめ観光地となっています。



大木から伸びる主索
 写真-2 かずら橋の細部
 かずら橋の内観

同じく三好市の東祖谷菅生（旧東祖谷山村）には奥祖谷二重のかずら橋と野猿と呼ばれる索道（ロープウェイ）があります。橋はそれぞれ男橋と呼ばれる長さ 42m のものと女橋 20m が並んでかかっています。原始的な構造の祖谷のかずら橋と同様にワイヤに白口かずらを巻きつけていますが、こちらはハンガーロープを用いた現代的な構造をしています。野猿とは川を越えるなどの目的で設置された人力の索道で、川の両岸にワイヤロープを渡し、このロープに屋形をつり下げます。利用者は屋形に乗り、別に渡されたロープをたぐることで屋形を前進させます。

ご紹介した橋はいずれも周囲の景観に馴染む素朴なものですがそれが一層、身近な素材で川を安全に渡りたいという今も昔も変わらない想いを伝えてくれています。



野猿の利用例
 写真-3 奥祖谷のかずら橋・野猿

男橋の内観

参考文献：徳島・橋ものがたり，加賀晃次著
 阿波の橋めぐり，坂本 好著

写真撮影：著者